

復興支援異分野連携プロジェクト 「食と農業支援部会」

被災地域の付加価値農業支援（農業イノベーション）6次産業化支援から植物工場支援まで、農業イノベーションの技術募集 報告書

開催日時：平成23年12月20日（火）16:00～18:00

開催場所：秋葉原 UDX 4F UDX オープンカレッジ

参加人数：参加者数:29名

#### 【参加企業】（順不同）

農林水産省、㈱ブーフーウー、NPOイノプレックス、森のエネルギー研究所、㈱ファーマニスジャパン、日本写真印刷株式会社、ジェイアール東日本コンサルタンツ㈱、㈱大気社、㈱NTTファシリティーズ、㈱資産工学研究所、株式会社日経広告、フードコンサルティング㈱、横浜国立大学、日立造船㈱、NPOバイオマス産業機構、クロスオーバー合同会社、㈱グルメぴあネットワーク、合同会社SARR ほか

#### 【開催目的及び進め方】

復興支援異分野連携プロジェクト会議の中の農業支援のための部会。農業部会、食の部会、ITの部会など、付加価値をつけるために連携してプロジェクト化していく。今回は、植物工場、スマートアグリ、六次産業など、それぞれの技術、情報をプレゼンテーションしていただきながら部会を進めていった。今後、このようにオープンな会議でそれぞれの技術を紹介していただきながら、平行して個別プロジェクトとしてクローズドな会議も開催していく。

#### 【会議内容詳細】

##### ◆会議概要説明

新産業文化創出研究所 所長 廣常啓一

#### 1. 「復興支援異分野連携プロジェクト」概要

復興支援異分野連携プロジェクトでは、現地ニーズ調査や支援したい企業のシーズをまとめ、第一次提言としている。プロジェクト化して、現地への提案を第二提言。被災地の自立を目指している。

# ナレッジプラットフォームでのワークショップからプロジェクト実現、そして産業創出までのフロー

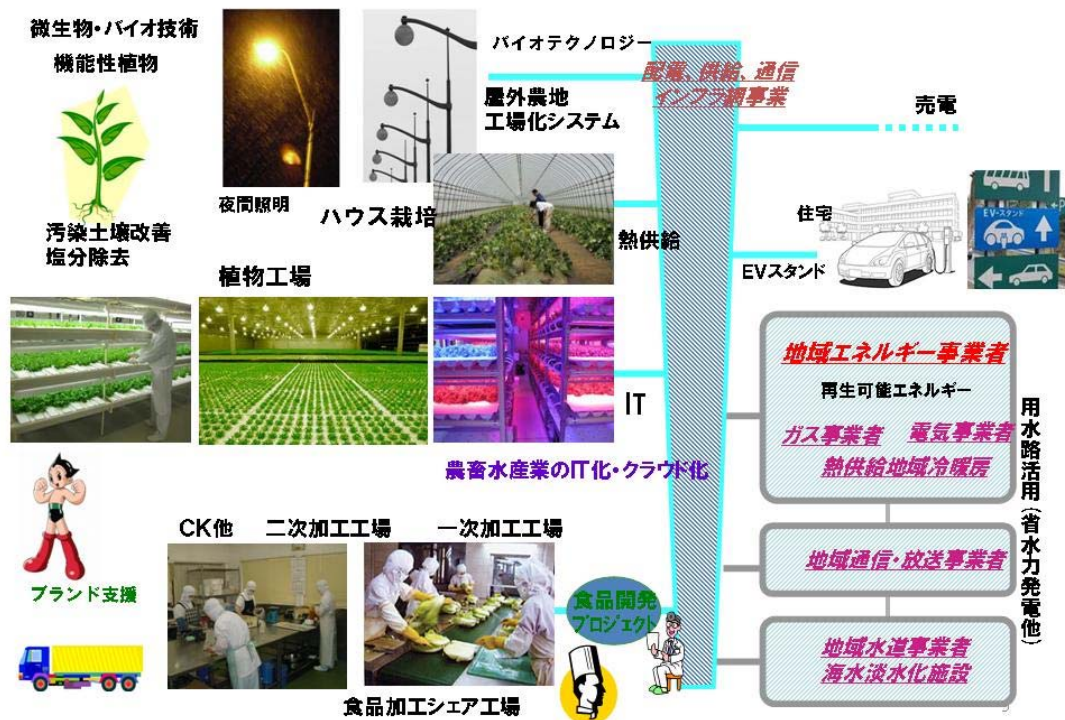
※オープンイノベーション・プラットフォーム「UDXオープンナレッジ事業」を活用



## 2. 農業支援

用水路を活用した小水力発電ほか、太陽光発電、風力発電によるエネルギー供給。屋外植物工場。ITを活用した植物工場。一次加工、二次加工。流通支援。事業者組成と人材育成。資金供給。六次産業支援。これらを最適に組み合わせ、地域のニーズに合った植物工場を作り、プロトタイプとして全国展開。(詳細略)

# 地域エネルギーの活用による農畜水産業の6次産業化、先端技術・IT活用



◆農林水産省 大臣官房政策課 食ビジョン推進室

食ビジョン推進室 食文化係長 長澤 沙織 氏

あくまでの 24 年度予算概算決定前の、8 月時点での要求ベースの情報。

- ・平成 24 年度創設されるものとして「農山漁村の六次産業化」  
六次産業に取り組む農業者資金供給
    - ① 農林漁業成長産業化ファンドの創設 200 億円
    - ② 農林漁業の成長産業化の実現 108 億円
    - ③ 食と地域の交流促進対策交付金 15 億円
  - ・官民共同のファンドの創設＋ハンズオン支援 20,000 百万円
  - ・6 次産業プランナーの育成＋交流会や商談会フェア 2,026 百万円
  - ・農林資産物処理加工施設、触媒施設、農林漁業用機械等整備など 2,294 百万円
  - ・食料基地をつなぐ物流拠点機能強化等支援事業 1,733 百万円
  - ・東日本復興回廊食の旅支援事業 520 百万円
  - ・東日本大震災農業生産対策交付金 3,025 百万円
- 
- ・平成 23 年第 4 次農林水産関係補正予算の概要 1,630 億円
- 目玉としては、農業体質強化基盤整備促進事業として 801 億円

◆NPOイノプレックス 代表理事 藤本 真狩 氏

植物工場のリサーチ&コンサルティング会社。食糧農業関係の技術調査をメインとしている。植物工場で黒字がでるのはほんの一部。黒字転換するのは平均 7.6 年。販路を確立できているところも黒字転換が早い傾向にある。店舗併設されているのも、最近は体験型へ。また、学校などを改修し、簡易式植物工場へ。

◆株式会社ブーフーウー 代表取締役 岩橋 麻男 氏

子供服メーカー。新しい市場を作り出し、社会へ貢献したいということを企業理念に掲げる。

1)東北各県の地域の色作りの提案

植物工場において農業再生に色材になる植物を育て地域別の色をつくる。(短時間で染色できる新萬葉染めのノウハウを活かした復興支援)。

2)沿岸部の新たな街づくり

新たな街創りを海上に。大きな船に役所や病院、学校、一般住宅や商店街、漁村、農村など。

◆ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社 環境部担当部長 横山正夫氏

ジェイアール東日本は信濃川流域に水力発電を持っており、山手線などに電力供給をしている。今回は小水力発電の提案。用水路など、川に設置し、水平に回して電気を起こす。安定的な電気を供給できるが、電気をためたり運んだりすることは難しい。

◆株式会社ファーニスジャパン 新規事業開発部長 江部正紀氏

電気抵抗式溶融炉の提案。炉内温度 1500 度以上に安定的に維持ができ、放射性物質を含む汚染物質の処理を行うことができる。ガラス固化で安定的に保管でき、放射能を減衰できる。熱利用として活用することも可能。

◆株式会社大気社 理事 伊東啓一氏

完全人工型植物工場の提案を東北復興とからめて模索中。大気社は、クライアントに事業提案をし、プロジェクト組成、建設計画、引き渡し、販路開拓支援を行う。農業法人と共に進める。完全人工型はイニシャルコストがかかるが量産、付加価値生産などが可能。

◆株式会社 NTT ファシリティーズ 新谷 義男氏

建物管理などで活用しているデータの収集分析ができるシステムを活用して、農業（ハウス栽培など）向けモニタリングシステムの開発に取り組んでいる。現在、相模原市の農業生産法人陽だまり農園などで実証実験中。農業新規参入者に対する栽培指導にも活用可能。

◆日本写真印刷株式会社 情報コミュニケーション事業部 佐藤彰氏

植物由来の DNA を使用したインキの活用。偽造防止などになり、高いセキュリティーレベルを保つことができる。耐久性に優れ、また少量でも実用可能なので経済性にも優れている。野菜に直接印字することにより、産地偽造や、放射能汚染検査証明ともなる。

◆株式会社グルメぴあネットワーク 代表取締役社長 CEO 増田康裕氏

インターネットで飲食店を紹介。飲食店を場と考え、食品、飲料のプロモーションを手掛ける。飲食店、料理人、料理研究家のネットワークを持つ。農水産物を市場に持っていくときにレシピを掲載する「タベルズ」などに掲載し支援。

◆株式会社森のエネルギー研究所 前保優子氏

バイオマスを使ってハウス栽培などの加温。ペレットなど重油の代わりに温浴施設、病院など、効率的にエネルギー供給できる。バイオマス液化はコストが合わないが、熱利用として適する。燃料供給できる地域である事が重要で、副業としての林業を推奨している。

その他、参加者の皆様から自己紹介をしていただいた。